

2008年度受託研究概要報告

平成20年度「神戸ルミナリエ」 メインビジュアル・ポスター等のデザイン

研究メンバー

かわいひろゆき デザイン学部ビジュアルデザイン学科教授

委託者

財団法人神戸国際観光コンベンション協会

1 あらまし

創造都市戦略としての「『デザイン都市・神戸』を推進するための基本的方針」に基づき、本学ビジュアルデザイン学科の学生とともに平成20年度「神戸ルミナリエ」のメインビジュアルの作成とポスター・チラシのデザインを開発し、広域的なPRに資することとなった。

2 業務内容

阪神・淡路大震災の犠牲者の鎮魂と被災地の復興を願う「神戸ルミナリエ」は、今年で14年目を迎えた。この間、全国的に大規模な電飾イベントが増え、神戸ルミナリエもその中のひとつになりつつあった。そこで、本年はほかのイベントとの差別化が求められ、震災の鎮魂と復興という神戸ルミナリエの原点に今一度立ち返り、デザインの開発が進められた。

一方で、黒地にルミナリエの写真という長年慣れ親しまれた象徴的なビジュアルイメージは踏襲したほうが効果的であると判断された。

また、神戸ルミナリエの運営は一般の方からの募金に負うところが多く、その呼びかけが非常に重要であることも確認された。

基本になるメインビジュアルは、黒地に無数の金色のドットで光のアーチを表現した。金色のドットは一人ひとりの鎮魂の思いであり、また、震災を乗り越えて街の復興に尽力した神戸市民一人ひとりの人生ドラマの輝きを象徴している。

ポスターの大きさは、駅貼りと旅行会社に配布されるB1サイズと、車内吊りのB3サイズの2種類があり、内容は、使用にあわせて5つのバリエーションがあった。A4サイズのチラシは、基本デザインはポスターと同じで、使用目的ごとに3つのバリエーションがあった。

6月9日（月）に2名の神戸ルミナリエ組織委員会の方々からオリエンテーションがあり、何度かの学内打合せの後、6月24日（火）に1回目のプレゼンテーションが行われた。その後、ブラッシュアップを重ね9月上旬納品となり、9月18日（木）に市役所の記者クラブにて記者発表された。

3 まとめ

制作期間中、神戸ルミナリエ組織委員会の方々との打合せが頻繁に行われたため、学生ともども、神戸ルミナリエの現状が深く理解できた。また、デザイン・コンセプトをしっかりと提示でき、表現に反映させることができたのも大きな成果であった。加えて、記者発表で学生がデザイン意図などを端的な言葉で表現する機会が持てたことは、またとない体験となった。



写真1 ポスター掲出



写真2 ルミナリエポスター記者発表